

報告事項

令和3年度事業計画

地盤工学会は公益社団法人として定款に定めた「地盤工学の進歩及び地盤工学に関わる技術者の資質向上を図り、学術・科学技術および文化の振興と社会の発展に寄与することを目的とする」に合致した公益事業を展開してゆく。

地盤工学会員は、自らの専門性を高め社会に貢献するという意識のもと、本部・支部間の連携を密にした学会活動を行っていく。頻発する自然災害の調査・研究は、本部・支部を挙げ、また他学会とも連携して積極的に実施し、様々なかたちで情報発信を行い、市民に必要とされる学会を目指した活動を継続する。地盤工学会誌、地盤工学ジャーナル、Soils and Foundations の出版、年1回の研究発表会の開催など恒常的に実施してきた各種活動の更なる魅力化についても横断的に議論し、複合的な効果を得られるよう内容の充実化を図る。

研究発表会では、Webによる参加・演題管理システムを導入しており、オンラインセッションや現地とオンラインを併用したハイブリッドセッションなど、with コロナ、after コロナの研究発表会の形を模索していく。講習会・研究委員会の開催が、オンラインの利用により形を変えつつある。支部開催の講習会や研究委員会にも他支部から参加しやすい環境となってきた。本部・支部併せてコンテンツの充実化を図り、会員サービスの一層の向上を目指していく。昨年度の新規基盤システムの導入では、会員各位への周知が十分でなく、会費の回収に遅れが生じる結果となった。基盤システムの一層の周知を行うとともに、電子化された地盤工学会誌の閲覧等、システム利便性・利用頻度の向上を目指しながら、会員各位からの意見を反映しながらシステムの充実を図っていく。

会館に関しては、分析協議を行った結果、修繕を行いながら維持していくことを理事会で確認しており、本年度は大規模修繕工事を実施していく。併せて、次の大規模修繕に向けた資金の積み立て計画に関しても議論を行っていく。本部および支部業務の効率化の検討を事業戦略企画室で時限的に行い、経費の削減に努めながらサービスの一層の充実を図る。

公益事業については、公益法人として要求される「公益事業の収支相償」、「全事業・管理費に占める公益事業費比率の50%以上確保」および「遊休財産額を公益事業費1年分以内に抑える」等の要件の維持に引続き努める。また、公益事業の統合化による再構築業区分の見直し等を検討する。

今年度において実施が計画される事業について、公益目的事業の事業区分毎に以下に示す。

1. 公益出版事業【公1】

公益出版部：地盤工学会誌では、電子版の強みを生かしたコンテンツの充実とニュース性の高い記事、

読み応えのある特集記事の発刊を継続する。地盤工学ジャーナルでは、先進的な学術論文とともに建設工事、災害報告等を幅広く掲載する編集方針で会員サービスに努める。Soils and Foundations では、Article Numbering を導入して投稿から掲載までの期間短縮を行うなど、国際誌として更なる充実に努める。出版事業関係では、既刊本の販売促進と在庫管理に努め、新刊企画の内容と出版計画を十分検討の上計画的・効率的に進めるとともに、絶版本等のアーカイブ化を進め会員向けサービス向上を図る。

北海道支部：「斜面の凍上対策の調査・設計マニュアル(案)」、「寒冷地地盤工学」などの支部出版物の販売促進に努める。「北海道の地盤災害と防災技術に関する研究委員会」を通して、「北海道の地盤と防災」(仮称)の発刊を目指す。

東北支部：過去に支部が主催・作成したシンポジウムや研究委員会等の書籍、および「2019 年台風第 19 号に関する東北学術合同調査団報告書」の販売促進に努める。「知っておいてほしい 地盤のはなし」(Web 掲載無料資料)についても、広く周知を図る。

関西支部：過去に関西支部が主催したシンポジウムや研究委員会等の資料、「土はおしゃべり」(書籍)等の支部発行物の販売促進を図る。

中国支部：支部独自の論文報告集「地盤と建設」を刊行し、会員の活動成果公表の場を提供する

九州支部：過去に九州支部が主催・作成したシンポジウムや研究委員会等の書籍について、その販売促進に努める。

2. 調査・研究事業〔公2〕

総務部：令和 2 年度に発生した豪雨災害の報告の取りまとめおよび調査研究と連携して報告会の実施。災害調査団登録制度の継続・発展、災害データ収集・研究委員会(堤防および斜面)の活動強化と調査研究部への移管。調査・研究を通じた若手研究者・技術者の交流促進、若手会員の活動の活性化を行う。

調査・研究部：新型コロナウイルス感染拡大の影響に適切に対応しながら、次の項目を実行する。第 56 回地盤工学研究発表会を開催し、参加者間の活発な討議や有用な情報交換の提供などを通して、学会全体の活動の活性化を図る。成果の最大化を目指した研究委員会の運営を行い、地盤工学の発展・社会への貢献を推進する。第 14 回環境地盤工学シンポジウムを開催し、会員への情報還元、地盤工学の発展を推進する。電子図書室のコンテンツの充実により、会員への調査・研究活動の促進に努める。

基準部：盤工学に関する規格・基準、および表記法等の制定、管理と、これらに関する図書の編集、出版に継続して取り組む。「土質試験 基本と手引き」を新たに改正された JIS 規格および JGS 基準に整合させる改訂作業を進める。「地盤調査の方法と解説」改訂版出版に向けての作業を開始する。新規制定基準のダウンロード販売を、既存基準に対しても実施できるように、その手法および整備を進める。

北海道支部：例年実施している技術報告会を現地開催(函館)またはオンライン開催(コロナ禍が収束

しない場合)で実施し、投稿論文を「地盤工学会北海道支部技術報告集第62号」として刊行する。委員会活動では、「北海道の地盤災害と防災技術に関する研究委員会」、「会員拡大検討委員会」を継続する。

東北支部：例年実施している講演会、地盤工学セミナー、地盤工学フォーラム、地盤工学講座、現場見学会、土質力学遠隔授業を実施する。また、災害調査協定など県の機関との協力関係を強固にする。これらの行事や事業により産官学間や異業種間の様々な交流を促進する。

北陸支部：昨年度災害協定を締結した国土交通省、新潟県と地域防災力向上に関する相互協力の方法について協議しイベントなどを企画する。新潟市において第57回地盤工学研究発表会の開催が内定したので実行委員会に協力する。例年行っている講習会、講演会、コロキウム、実務者報告会、現場見学会などオンライン形式を多用して実施する。「学生+若手技術者(卒業・修了後3年以内)」をターゲットにした「支部研究発表会+交流イベント」を新たに企画する。

関東支部：COVID-19による制約状況下ではあるが、第18回関東支部発表会(GeoKanto2021)を東京にて開催するほか、対面形式でもオンライン形式でも対応可能な各種講演会を企画、実施する。研究委員会活動については、新たに2件程度の新設委員会を公募する予定であり、申請課題を検討のうえ、今期中に新規開設する。コロナ禍で活動が滞った委員会については、1年間延長し継続して活動を行う。延期を余儀なくされた世代間の交流を目的として若手を対象とした「ソイルストラクチャーコンテスト」や「若手技術者交流セミナー」、歩きながら見て・知って・学ぶ「ジオ散歩」を開催する。オンラインでも好評であった「～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～ジオテク語りべ会」を今年度も開催する。また、特別会員、中学・高校等を対象とした出前講座を実施し、会員等が抱える課題や関心などのニーズに即したサービスの提供を行う。会員ならびに一般市民を対象として、公共事業の重要性、国民の生命と財産に対する安全・安心への貢献、地盤工学の重要性、面白さを理解してもらえる講演会、現場見学会、技術交流会等を開催する。また、災害調査協定など国や都県の関係機関との協力関係を強固にし、貴重な業績を世に問うべく関東支部発表会などへ投稿しやすい環境づくりを推進する。研究成果報告書では「法律家・消費者のための住宅地盤Q&A」、「新・関東の地盤(2014年版)」の販売促進に努める。

中部支部：第30回調査・設計・施工技術報告会、第33回中部地盤工学シンポジウムを開催し、技術者および研究者の地盤工学に関する情報交換の機会を設ける。また、見学会を企画し、市民へのサービス提供および啓発活動を進める。これらは三密を避けた実施方法を検討する。その他、シニア活性化委員会によってシニア会員向けの懇話会・見学会等を企画し、シニア世代による学会活動への継続的参画を図る。さらにシニア活性化委員会と若手技術者の会との連携を図り、次世代への技術伝承に繋がる活動を推進する。最新名古屋地盤図(追補版)の販売に努める。

関西支部：「Kansai Geo-Symposium 2021 ー地下水地盤環境・防災・計測技術に関するシンポジウムー」、
「若手セミナー ～地盤工学の基礎講座～」、「特別講演会」や見学会等の各種行事を、会員のニーズに合わせて開催する。また、滋賀・和歌山・福井の3地域の「地域地盤研究会」、「斜面災害のリスク低減に関する研究委員会」、「地盤工学分野における ICT 活用促進に関する研究委員会」、「夢洲の地盤性状と沈下性状に関する研究委員会」の3つの研究委員会を通じて活発な調査研究活動を実施する。また、4学協会との共催・後援開催となる「令和3年度施工技術報告会」を実施し、会員や一般市民に対して広く地盤工学技術に関する啓発を進める。さらに、小・中・高校生を対象とした「出前講義」や工業高校・高専生を対象とした「見学会」、市民を対象とした「市民特別講演会」や「ふるさと地盤診断ウォーク」を開催し、広く一般市民の公益に資する活動を行う。

中国支部：「地盤工学セミナー報告会」を開催し、技術者および研究者の地盤工学に関する情報交換の機会を設ける。また、「講演会」や「工事報告会」などの定例行事を開催する。

四国支部：技術研究発表会やシンポジウムなどを開催して地盤工学に関する情報交換の機会を設けることで、支部活動の一層の活性化と学会活動の認知度向上に努める。また、「地盤地震防災研究委員会」は、地盤防災技術の普及・向上に向けて、引き続き調査・研究活動を実施する。さらに、四国4県の若手技術者の学会運営への参画促進や支部事務局業務の効率化の推進により、事業の活性化を図る。

九州支部：九州地盤情報システム協議会において、「九州地盤情報データベース（第3版）」の販売促進を図る。また、「熊本地震被災構造物の復旧に関する調査研究委員会」は、熊本地震の構造物被害と復旧に向けて、調査・研究活動を実施する。「九州・沖縄の地盤（仮）執筆準備委員会」を立ち上げ、調査・研究活動を実施する。

3. 技術推進事業【公3】

総務部：広報関係の活動は、①タイムリーかつ効果的な情報発信、②社会における地盤工学・地盤技術者の認知・理解向上のための活動、③災害調査活動の情報発信強化、④学会の国際情報発信の4つを柱とする。①および②については、各部、各委員会、および支部と連携し、ホームページ、メールニュース、フェイスブック、プレスリリースなどを駆使し、地盤工学会の活動とその成果を情報発信し、地盤工学・地盤技術者の役割を広く社会に認知・理解してもらうための活動を行う。また、公益出版事業と重複する活動の統合を検討することを含め、効率化についても検討する。③については、近年、学会が精力的に行っている災害調査活動結果を一般市民・学会員に迅速に情報が伝達できるように、バナーの設置などのホームページの改定、フェイスブックでの情報発信を行う。④については、会員システムの移行に伴う和文ホームページの更新とともに、英文ホームページの充実化を図る。

事業企画戦略室：内閣府検査で指摘の受けた交付金制度の在り方を含めた支部業務のスリム化、一元化

についての議論を会員・支部部、支部、総務部と連携して時限付きで実施する。また、研究発表会や講習会が Online で実施されてきている。Online での講習会の開催方法は、令和 2 年度に制度を制定し運用してきたが、再度、運用実績を踏まえて制度の見直しを行っていく（時限付き）。

会員・支部部：継続的な学会運営のために会員数の増加をめざし、本部・支部間で連携を強化して会員へのサービスの向上に努める。講習会においてはさまざまな技術レベルのニーズに対応できるような内容の提供を目指してコンテンツの充実化を図るとともに、ニューノーマルに対応したオンライン講習会をさらに推進し、全国規模での受講機会の均等化を醸成していく。また、次世代の若手技術者の育成のための活動も継続して行う。継続教育に関しては、学会員が実際の活動に見合った CPD の獲得が可能なようにコンテンツの充実を図るとともに、学会外から要請される審査を精力的に継続実施していく。地盤品質判定士資格制度に関しては、更なる発展に向けて強く協力を進める。ダイバーシティ減免制度については、その評価と見直しを行っていく。

国際部：国際地盤工学会との連携および各種国際交流活動の推進を継続し、地盤工学を通して国際貢献を行う。延期された第 20 回国際地盤工学会議（ICSMGE）（2022 年 4-5 月開催予定、オーストラリア・シドニー）への論文投稿及び運営支援、地盤災害軽減、交通地盤動力学や環境等のテーマ指向型の国際シンポジウムの開催、二国間交流協定に基づく行事の計画や実施、国際地盤工学会の技術委員会（TC、ATC）およびそれに関わる国内行事や Young Member Presidential Group 活動へのサポート等を行うとともに、地盤工学の新たな分野を開拓するための国際行事の企画を行う。以上を通して、学会ならびに会員の国際化・国際力強化に資する活動を行う。

北海道支部：コロナ禍を踏まえ、支部主催講習会をオンライン開催で行う。また、コロナ禍が収束した場合には、主として若手技術者を対象としたセミナー（現場見学会を含む）を道内数ヶ所において開催する。他学協会との協賛行事に積極的に取り組み学会の啓蒙を図る。支部ホームページや SNS を利用した広報活動を積極的に行い、会員サービスの充実、支部活動の活性化に努める。

東北支部：講習会を開催するとともに、他学協会との協賛行事にも積極的に取り組むことと女性の会員の活動を活性化し、会員へのサービスの充実を図る。

北陸支部：例年に準拠し、セミナー、現場技術者のための講習会、とことん勉強会など、オンライン形式を多用して開催する。富山県との災害協定に基づき県内自治体職員に対する研修会を開催する。建設コンサルタント協会など関連学会協との連携を強化し、支部活動の活性化と新規会員の獲得を目指す。

関東支部：研究委員会活動と県グループ活動等とのタイアップによる講習会の開催、他学会とのシンポジウム共催など各地の官公庁・公的機関や地盤関連の各種法人・団体との連携を図り、成果の普及や学術振興の機会を幅広く設けた活動を行う。

中部支部：技術者や研究者を主対象に各種セミナーを開催する。引き続き、他学協会との連携開催による技術者・研究者交流を推進するほか、集中講座、イブニングセミナーにおいては、学び直しや若手の技術力向上のための講座を計画する。地盤調査ボーリング作業、物理探査～室内土質試験講習会を継続開催する。三密を避ける必要がある場合は、リモートや動画コンテンツを利用した実施を検討する。併せて会員サービスの充実（セミナーなど特別会員同行者無料、シニア会員の講習会参加費低減等）を図る。その他、学校や企業等からの依頼に基づき出前講義を開催する。

関西支部：会員や一般市民のニーズにあわせた講習会・講演会として、「宅地地盤の品質評価に関する技術講習会」、「実技セミナー」を実施し、会員サービスの充実を図る。支部ホームページやSNSを利用した広報活動を積極的に行い、支部活動の活性化に努める。

中国支部：会員のニーズに沿った講習会を各地域で企画する。オンラインやハイブリッドなど様々な開催方法を取り入れて、より参加しやすい環境を提供し、会員サービスの充実を図る。

四国支部：地盤や防災に関する講習会など、会員のニーズを反映した行事を企画・運営することにより、会員サービスの充実を図る。

九州支部：実務に役立つことを目指した講習会の開催を始め、特別講演会、地区活動、見学会、他学会、協会との協賛行事等を全8地区で取り組んでいく。本部開催の講習会に九州地区の会員が容易に参加できるように、本部講習会を中継したサテライト講習会を年に4回程度実施する。

4. 表彰関連事業【公4】

総務部：地盤工学の発展に長年にわたり多大な貢献をされた会員を名誉会員として推薦する。また、新分野に関する研究推進・技術開発を促進する賞の募集を行う。さらに、地盤工学学会賞を受賞した研究・技術の国等の表彰制度への推薦の強化を実施する。

北海道支部：例年どおり支部賞および支部賞学生部門の表彰を行う。支部発行「技術報告集」から正会員及び学生会員の新進者を対象に選定し、地盤工学に関する学術および技術の進歩発展を奨励する。また、H30年度より新たに支部特別表彰として、実績のあるエキスパートによる特に優れた技術報告があった際にはその貢献を表彰する制度を設けたので、これを継続する。

東北支部：支部表彰を例年どおり行う。支部表彰（技術的業績部門）は、地盤工学フォーラムにおいて応募者によるプレゼンテーションを実施することで業績内容を広く会員に公開する。

北陸支部：支部賞として、論文部門研究功績賞、論文部門研究奨励賞、技術部門技術賞、企画部門企画賞、功績部門功績賞の募集を行い優れた活動・業績を表彰する。

関東支部：関東支部賞（技術賞、功績賞）の表彰を行う。また、支部発表会において優秀発表者の表彰も行う。

中部支部：個人、団体の学会活動や業績に十分配慮し、支部活動の一層の活性化へ繋がるよう、中部支部賞（研究奨励賞、技術賞、功績賞）の表彰を行う。

関西支部：支部会員の地盤工学に関する学術・技術の向上・普及に資する優れた活動や社会に貢献を行った活動に対し「学術賞」、「学術奨励賞」、「地盤技術賞」、「社会貢献賞」の各支部表彰を行う。

中国支部：「地盤と建設」論文賞、「地盤と建設」論文奨励賞、「地盤工学セミナー」報告賞、技術賞の支部表彰を行う。

四国支部：地盤工学の学術並びに技術の発展と学会支部活動の活性化に寄与した優れた業績を表彰するために、四国支部賞（技術賞、技術開発賞、研究・論文賞、および功績賞）として表彰する。

また、技術研究発表会において、特に優秀な若手技術者を「優秀発表者」として表彰する。

九州支部：九州支部技術賞（団体の部・個人の部）、九州支部貢献賞、優良学生賞の表彰を行う。

1. 公益出版事業【公1】

(1) 学会誌「地盤工学会誌」の発行

担当部	誌名	年発行回数	編集方針
【公益出版部】	「地盤工学会誌」	12回(月刊)	建設プロジェクトのSDGsに対する取り組み【4月号】/地盤工学教育のこれから【5月号】/落石【6月号】/地盤材料物性・地盤挙動の不確実性への対応【7月号】/土構造物の診断・センシング技術【8月号】/エネルギー開発における地盤工学の貢献【9月号】/法令・コンプライアンス・技術者倫理【10月号】/地盤工学研究発表会【11月号】/その他【12月号】/調査技術・実験法【1月号】/地盤の工学的問題の解析【2月号】/地盤防災【3月号】 (いずれも予定)

(2) 公益出版(論文集・刊行物)

1) 「Soils and Foundations」ならびに「地盤工学ジャーナル」

担当部	誌名	年発行回数	編集方針
【公益出版部】	「Soils and Foundations」	6回(隔月刊)	質の高い論文を迅速に発刊するとともに、特集号、災害調査報告、先進的な国内技術情報の掲載を通して学会の国際情報発信と学術の発展に寄与する。
	「地盤工学ジャーナル」	4回(季刊)	実務と現場に直結した情報を速報性を確保して掲載(電子配信・邦文主体)

2) 学術図書等(新刊)

担当部	出版期日	書名
【調査・研究部】	3.7	第56回地盤工学研究発表会発表講演集
	3.9	第14回環境地盤工学シンポジウム論文集
【基準部】	3.10	地盤材料のボーリング・サンプリングと採取試料の品質評価法に関するシンポジウム論文集
	4.2	土質試験—基本と手引—(第4回改訂版)
	4.2	杭の鉛直載荷試験方法・同解説(第2回改訂版)
計 5 点		

2. 調査研究・基準事業【公2】

(1) 研究発表会、シンポジウム、講演会等

担当部	開催期日	名称	開催場所
【調査・研究部】	3.7.12-15	第56回地盤工学研究発表会	オンライン・山形
	3.9.6-7	第14回環境地盤工学シンポジウム	川崎
【基準部】	3.5	「地盤材料試験の技能試験」報告会	東京
	3.10.8	地盤材料のボーリング・サンプリングと採取試料の品質評価法に関するシンポジウム	東京
計 4 回			

(2) 見学会等(会員および一般市民向け活動)

(3) 各種研究委員会、災害調査委員会

1) 研究・調査委員会等

担当部	委員会名	備考
【総務部】	災害調査データの収集と活用委員会	
【調査・研究部】	[研究委員会] 地盤環境汚染対策の科学的合理性判定のための調査・試験・評価法に関する研究委員会	
	未曾有の豪雨により複合化した土砂・水災害に遭遇する時代に突入した地盤技術の今後と社会的な方策に関する研究委員会	
計 3 件		

(4) 試験法・調査法の基準制定、ISOへの対応

担当部	基準名等	備考
【基準部】	[新規制定地盤工学会基準] 室内試験関係の改正基準	
	[ISO対応] ISO/TC182 (Geotechnics, 地盤工学), TC190 (Soil quality, 地盤環境), TC221 (Geosynthetics, ジオシンセティックス) における制定と見直し(改正、廃止、確認等)に関する審議	
計 2 件		

(5) 受託研究・技術指導

担当部	委員会名	備考
【調査・研究部】	[受託研究委員会] 横浜環状北線地盤変動監視委員会	
	ISO国内委員会 TC182国内専門委員会 広域地盤特性評価WG	
計 2 件		

3. 技術推進事業【公3】

(1) 継続教育（講習会、system構築・記録管理・証明）

1) 講習会の開催

担当部	開催期日	名 称	開催場所
【会員・支部部】	3. 5. 26	補強土工法の最新動向に関する講習会その2 地山補強土工法	東京及びオンライン
	未定	土質および基礎に関する技術-技術士受験のポイント-講習会	東京及びオンライン
	未定	はじめて学ぶFEM講習会	東京及びオンライン
	未定	第1回宅地地盤の評価に関する最近の知見講習会	東京及びオンライン
	未定	わかって使うFEM講習会	東京及びオンライン
	未定	液状化解析の専門技術講習会	東京及びオンライン
	未定	第2回宅地地盤の評価に関する最近の知見講習会	東京及びオンライン
	未定	わかりやすい地盤工学基礎シリーズ講習会	東京及びオンライン
	未定	山留め・土留めの設計講習会	東京及びオンライン
	未定	実務者のための土と基礎の設計計算演習講習会（構造物基礎編）	東京及びオンライン
	未定	実務者のための土と基礎の設計計算演習講習会（軟弱地盤・液状化・山留め・斜面安定）	東京及びオンライン
	未定	河川堤防の調査・検討・維持管理講習会	東京及びオンライン
	未定	舗装-設計から維持管理まで-講習会	東京及びオンライン
	未定	杭に関する講習会（仮題）	東京及びオンライン
	未定	現場における地盤調査法の基本講習会	東京及びオンライン
	未定	土砂災害に関する技術講習会	東京及びオンライン
	未定	支持力入門講習会	東京及びオンライン
	未定	土壌・地下水汚染の調査・予測・対策講習会	東京及びオンライン
	未定	液状化に関する各種基準・指針の現状の講習会	東京及びオンライン
	未定	（仮題）圧密に関する講習会	東京及びオンライン
	未定	『表彰受賞案件』に関する講習会	東京及びオンライン
	未定	杭の鉛直載荷試験方法に関する講習会	東京及びオンライン
計 22 回			

2) 継続教育システム構築、記録管理、証明

(2) 国際交流、国際的学術・技術交流

1) 国際会議・シンポジウム

担当部	開催期日	活 動 項 目	開催場所
【国際部】	3. 10. 20-22	第3回環境地盤工学における連成現象に関する国際シンポジウム（CPEG2020）	京都市
	3. 10. 18-19	第4回日米地盤環境工学ワークショップ	京都市
	未定	8th International Geotechnical Symposium on Disaster Mitigation	札幌市
	未定	交通地盤動力学国際会議(International Symposium on Environmental Vibration and Transportation Geodynamics - ISEVTG)	札幌市
計 4 件			

2) 国際講演会等の開催

担当部	開催期日	活 動 項 目	開催場所
【国際部】	未定	国際講演会	京都市
計 1 件			

3) 国際関係委員会等

担当部	委 員 会 名	備 考
【国際部】	[TC101] Laboratory Testing (Laboratory Stress Strain Strength Testing of Geomaterials) 国内委員会	
	[TC103] Numerical Methods in Geomechanics 国内委員会	
	[TC105] Geo-Mechanics (Geo-Mechanics from Micro to Macro) 国内委員会	
	[TC202] Transportation (Transportation Geotechnics) 国内委員会	
	[ATC1] Geotechnical Mitigation and Adaptation to Climate Change-induced Geo-disasters in Asia-Pacific Regions 国内委員会	
	[ATC3] Geotechnology for Natural Hazards 国内委員会	
	[ATC10] Urban Geo-informatics 国内委員会	
	[ATC19] Geo-engineering for Conservation of Heritage Monuments and Historical Sites 国内委員会	
	[TC216] Frost Geotechnics 国内委員会	
	[TC217] Land Reclamation 国内委員会	
[PIC国内委員会] 社会的地位向上推進委員会		
計 11 件		

4. 表彰関連事業〔公4〕

(1) 表彰

- 1) 学会賞の募集、審査、表彰
- 2) 名誉会員の推挙
- 3) 功労章の授与
- 4) 貢献賞の授与
- 5) 特別会員表彰、事業企画賞、学会誌優秀賞、地盤工学研究発表会優秀論文発表者賞等の授与、永年にわたる正会員への感謝状贈呈、国際会議若手優秀論文賞
- 6) 支部表彰ほか

5. 運営関係委員会等

担当部	委員会等	備考
【総務部】	第63回通常総会 理事会 正副会長会議 選挙管理委員会 表彰委員会 災害連絡会議 総務部会	
【事業企画戦略室】	事業企画戦略室会議	
【会員・支部部】	会員・支部部会 本部支部連絡協議会 技術普及委員会 継続教育システム委員会 男女共同参画・ダイバーシティに関する委員会	
【国際部】	国際部会 国際委員会 国際交流委員会	
【公益出版部】	公益出版部会 出版事業グループ 「地盤工学会誌」編集委員会 「Soils and Foundations」編集委員会 「地盤工学ジャーナル」編集委員会 地盤工学・入門シリーズ「交通地盤工学入門(仮称)」編集委員会	
担当部	委員会等	備考
【調査・研究部】	調査・研究部会 研究・連携・情報委員会 研究発表会委員会 地盤環境企画委員会 岩盤工学企画委員会 第56回地盤工学研究発表会実行委員会 第57回地盤工学研究発表会実行委員会	
【基準部】	基準部会 ISO国内委員会 地盤工学表記法委員会 室内試験規格・基準委員会 地盤調査規格・基準委員会 地盤設計・施工基準委員会 技能試験実施委員会	
計 36 件		

6. 支部活動（支部事業計画）

(事業区分)		【北海道支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会	4/23 4月、2月、その他適宜メール審議実施 4月、2月、その他各グループ毎に随時開催
〔公2〕 〔公4〕 〔共通〕	2. 委員会の活動	①支部表彰委員会 ②北海道の地盤災害と防災技術に関する研究委員会 ③地盤災害緊急対応委員会 ④会員拡大検討委員会	適宜 適宜 適宜 適宜
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①技術報告会	函館市又はオンライン(1月)
〔公3〕 〔公2〕 講習会 講演会	4. 講演会、講習会等	4.1 講習会 ①北海道の地盤と防災講習会(仮称) ②支部主催オンライン講習会 4.2 セミナー ①「土を考える」(現場見学会も開催)	札幌市(地方も検討)時期未定 2回程度 時期未定 札幌市他 3回程度 時期未定
〔公3〕	5. 国際活動	—	
〔公1〕	6. 新刊発行予定		
〔公4〕	7. 表彰	①支部賞(支部賞、支部賞(学生部門)、支部特別表彰)	
〔共通〕	8. その他	広報活動 ・北海道支部ホームページの管理 ・SNS (Facebook) を使った広報, 行事参加報告 ・技術報告集の広報用謹呈作業 ・技術報告集バックナンバーのweb公開作業	

(事業区分)		【東北支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会 常任幹事会	4/23 2回(第1回 4月総会開催日、第2回 2月) 幹事会 2回(第1回 6月 第2回 1月) 3回(第1回 5月 第2回 11月 第3回 2月)
〔公2〕 〔公4〕 〔共通〕	2. 委員会の活動	①地盤研究委員会 ②東北地域地盤災害研究委員会 ②-1地盤データベース利活用小委員会 ②-2地盤リスク検討小委員会 ③地震時における地盤の大変形・崩壊挙動の解析技術に関する研究委員会 ④資源循環研究委員会 ④-1鉄鋼スラグ有効利活用小委員会 ④-2石炭灰有効利活用小委員会 ⑤渉外委員会 ⑥表彰委員会 ⑦広報委員会 ⑧支部活動活性化委員会 ※ とうほく地盤情報システム運営協議会(協力)	適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜 適宜
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①地盤工学セミナー ②地盤工学講座 ③地盤工学フォーラム	(6月) (7-12月) (1月)
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	①見学会 ②講習会 ③講演会 ④地域会 ⑤土質力学遠隔授業	(10月) (適宜) (4月/1月) (適宜) オンライン(適宜)
〔公3〕	5. 国際活動	—	
〔公1〕	6. 新刊発行予定	—	
〔公4〕	7. 表彰	①支部賞(審査のうえ表彰)	
〔共通〕	8. その他	①広報活動 ・支部HPの更新(随時) ・G-CPD普及活動(随時)	

(事業区分)		【北陸支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会	4月(金沢市) 2回(2月19日、11月) 6回(石川・富山・新潟地区、各年2回開催)
〔公2〕 〔公4〕 〔共通〕	2. 委員会の活動	①北陸支部表彰委員会 ②出版事業推進委員会 ③雪割草の会(女性部会) ④軟弱地盤対策工法の設計と維持管理に関する調査研究委員会 ⑤全国大会準備実行委員会 ⑥支部研究発表委員会 ⑦北陸支部防災会議	
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①第84回土質工学最新情報コロキウム ②第27地盤工学に関わる実務者報告会 ③第85回土質工学最新情報コロキウム ④石川地区実務者報告会	金沢地区(10月) 新潟地区(1月) 富山地区(2月) 金沢地区(4月)
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	①講演会 ②ジオテクセミナー ③ジオテクフォーラム ④見学会 ⑤第17回地盤調査法講習会 新潟市 ⑥とことんジオテク集中講義 ⑦災害協定に基づく県市町村職員研修会 富山市 ⑧現場技術者のための土質力学：第8回 金沢市	(3回程度) (随時開催) (時期未定) (各県1回計3回) (10月) (2回程度) (2回程度)
〔公3〕	5. 国際活動	—	
〔公1〕	6. 新刊発行予定	北陸支部60周年記念誌	
〔公4〕	7. 表彰	部賞(技術賞、技術開発賞、論文賞、功績賞)	
〔共通〕	8. その他	—	

(事業区分)		【関西支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会 ④支部活性化ワーキング ⑤顧問会 ⑥合同委員会（各委員会委員長との意見交換） ⑦代議員懇談会（支部代表の代議員との意見交換）	(4/19) 年間2回 年間4回 年間4回 年間1回 年間2回 年間1回
	2. 委員会の活動	①地盤工学広報企画委員会 ②福井地域地盤研究会 ③和歌山地域地盤研究会 ④滋賀地域地盤研究会 ④斜面災害のリスク低減に関する研究委員会 ⑤地盤工学分野におけるICT活用促進に関する研究委員会 ⑥夢洲の地盤性状と沈下性状に関する研究委員会 ⑦表彰委員会	年間2回 年間3回 年間2回 年間3回 適宜 適宜 適宜 委員会・選考会 年間1回
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①Kansai Geo-Symposium 2021 ②令和3年度施工技術報告会	(11/5) 4学協会共催・後援（2月）
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	4.1 講演会 ①総会時特別講演会 ②市民特別講演会 4.2 見学会 ①現場見学会 ②ふるさと地盤診断ウォーク ③工業高校・高専対象見学会 4.3 講習会 ①「宅地地盤の品質評価に関する技術講習会」 4.4 実技セミナー ①第63回実技セミナー 4.5 若手セミナー ①「若手セミナー～地盤工学の基礎講座～」 4.6 その他 ①出前授業	支部総会時（4/19） 地盤工学広報企画委員会主催（1月） (9月～10月頃) 地盤工学広報企画委員会主催(10・11月) 地盤工学広報企画委員会主催(随時開催) (5月) (6月) (6月) 地盤工学広報企画委員会主催(随時開催)
	〔公3〕	5. 国際活動	—
〔公1〕	6. 新刊発行予定	—	
〔公4〕	7. 表彰	①関西支部賞(学術賞、学術奨励賞、地盤技術賞、社会貢献賞)の表彰	次年度支部総会時
〔共通〕	8. その他	①関西支部ホームページ更新、SNS・メールリングリストによる行事案内等の発信 ②会員へのサービスの充実	随時

(事業区分)		【中国支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会	4/22 4月、2月 4/22、11月、2月、地域幹事会随時
〔公3〕 〔公4〕	2. 委員会の活動	①論文報告集「地盤と建設」編集委員会 ②国際委員会 ③表彰委員会 ④受託委員会	
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①工事報告会*土木学会と共催 ②地盤工学セミナー報告会	岡山市(10月頃) 米子市(6/26)
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	①土質力学講座 ②講演会 ③講演会 ④講習会 ⑤講習会 ⑥講習会 ⑦講習会	広島市(9月) 岡山市(7月) オンライン(1月) オンライン(8月) オンライン(8月) 松江市(9月) 岡山市(10月)
〔公3〕	5. 国際活動	①国際活動支援事業	(詳細未定)
〔公1〕	6. 新刊発行予定	①論文報告集「地盤と建設」<第39巻第1号>	
〔公4〕	7. 表彰	①地盤工学セミナー報告賞 ②「地盤と建設」論文賞 ③「地盤と建設」論文奨励賞 ④技術賞	
〔共通〕	8. その他	—	

(事業区分)		【四国支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会	4/20 高松市 4/20、2月 その他必要に応じて開催 3回程度 高松市
〔公2〕 〔公4〕	2. 委員会の活動	①地盤地震防災研究委員会 ②表彰委員会	3回から5回
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	①技術研究発表会 ②地盤と防災・環境に関するシンポジウム	高知県(11月) 徳島市(未定)
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	①講習会 ②見学会 ③学術講演会 ④愛媛県地盤工学研究会第1回学術講演会 ⑤愛媛県地盤工学研究会第2回学術講演会 ⑥愛媛県地盤工学研究会第3回学術講演会 ⑦第49回高知県地盤工学研究会講演会 ⑧第50回高知県地盤工学研究会現地見学会 ⑨香川県地盤工学研究会第1回学術講演会 ⑩香川県地盤工学研究会第2回学術講演会 ⑪香川県地盤工学研究会現場見学会 ⑫徳島県地盤工学研究会第1回特別講演会 ⑬徳島県地盤工学研究会第2回特別講演会	高松市(1月) 高知県(11月) 未定 松山市(7月) 松山市(11月) 松山市(1月) 高知市(8月) 高知県(12月) 高松市(9月) 高松市(11月) 香川県(12月) 徳島県(未定) 徳島県(未定)
〔公3〕	5. 国際活動	—	
〔公1〕	6. 新刊発行予定	—	
〔公4〕	7. 表彰	①技術研究発表会優秀発表者賞 ②四国支部賞	
〔共通〕	8. その他	—	

(事業区分)		【九州支部】	
〔共通〕	1. 総会、役員会等	①総会 ②商議員会 ③幹事会 ④顧問会	福岡市(4/下旬) 3月 1回程度 4月
〔公2〕 〔公4〕 〔共通〕	2. 委員会の活動	①総務企画委員会 ②事業推進委員会 ③広報委員会 ④国際委員会 ⑤研究委員会 熊本地震地盤構造物調査研究 「九州・沖縄の地盤」(仮)執筆準備委員会 ⑥表彰委員会 ⑦九州地盤情報システム協議会 ⑧会員増加推進委員会 ⑨将来ビジョン検討委員会	適宜開催(メール審議) 九州建設技術フォーラムのブース管理 委員会(3回)、若手地盤工学セミナー(12月頃) 福岡市(6回程度) 福岡市(6回程度) 表彰:福岡市(12・2月) 企画部会(1回)、幹事会(3回)、協議会(1回)
〔公2〕	3. 研究発表会、シンポジウム、報告会等	—	
〔公2〕 〔公3〕	4. 講演会、講習会等	①「技術士養成塾」 筆記試験添削講座(通信講座全5回) 筆記試験ガイダンス 模擬面接講座 ②講習会 ・サテライト講習会 ・大学生のための地盤工学セミナー ③特別講演会 ④各地区勉強会・講習会等多数 ・定例セミナー「ジオテクセミナー」/現場見学会 ・定例勉強会「ジオラボ」/現場見学会 ・定例「土の勉強会」 ・地盤工学に関する講習会 ・地盤の勉強会 ・技術講演会 ・地盤の勉強会/地盤災害に関するシンポジウム ⑤見学会 ⑥令和2年7月九州豪雨地盤災害調査団報告会	通信添削(4月末~7月上旬) 福岡市(4月10日) 福岡市(11月頃) 福岡市(4回) 福岡市(12月頃) 福岡市(12月頃) 九州各地区 北九州(6回程度) 長崎(2月を除く偶数月) 鹿児島(2ヶ月に1回奇数月) 佐賀(2回) 熊本(1回程度) 大分(10月) 宮崎(3回程度) 北九州(10-11月)長崎(10月) 6月開催予定(場所未定)
〔公3〕	5. 国際活動		
〔公1〕	6. 新刊発行予定	—	
〔公4〕	7. 表彰	①令和3年度九州支部技術賞(団体の部・個人の部)の募集を行い、審査のうえ表彰する ②令和3年度九州支部貢献賞の募集を行い審査のうえ表彰する ③令和3年度九州支部優良学生賞を審査のうえ表彰する	
〔共通〕	8. その他	—	